

Lagos

について



ラゴス

ラゴス（Lagos）と海との関わりには長い歴史があります。最初の名称、ラコブリガ（Lacobriga）から、紀元前2000年頃、この港町に最初に住み着いたのはケルト族であったことがわかります。その後、フェニキア人、ギリシア人、カルタゴ人が到来しましたが、この町に発展と繁栄をもたらしたのはローマ人です。10世紀になるとムーア人がラゴスの周囲に壘壁を築き、ザワイア（Zawaia）と名づけました。ムーア人は1249年にキリスト教徒に占領され、ポルトガル領の一部となるまでこの町を支配しました。

15世紀になると、ラゴスは大航海時代に直接関わることになり、黄金時代を迎えました。港がアフリカの真向かいという位置にあったため、ラゴスは毎年、アフリカ大陸の発見のために航海する船が出港し、帰港する重要な港となりました。アフリカから持ち込まれる象牙、金、銀といった多種多様な外国産品の貿易の重要な中心地として、ラゴスにはこの時期、住宅や貿易商がぞくぞくと増え、それゆえ記念建造物も次々と建てられました。

16世紀には町の拡大に合わせて新たな壘壁が築かれ、1572年以降、ラゴスは司教管区となり、アルガルヴェ（Algarve）総督の公邸が建てられました。17世紀に戦略的に重要な地点に一連の砦が築かれ、この町の防御はさらに強化されました。1755年の地震とそれに続く海震によって都市の大部分は破壊され、町がようやく繁栄を取り戻したのは、魚介類缶詰産業が導入され、それに伴い貿易が拡大した19世紀以降です。現在、ラゴスはダイナミックで活気にあふれ、当然ながら過去に誇りを持っている都市です。